

続・近江建築見学ツアー感想

■茶室＝狭い＝薄暗い＝和＝国産材料という固定観念を覆させられた佐川美術館の茶室。水中の茶室は縦方向に空間の広がりを感じ、水に浮かぶ茶室は外部に水平方向に視界が広がる茶室でした。日頃の仕事も固定概念からの脱却も時には必要だと感じた有意義な見学会でした。(堀尾)

■佐川美術館の茶室の見学では、腰掛待合など、今までの常識でない茶室の空間構成にただ驚きました。ジンバブエの石を利用した床框はじめ、知らない材料がたくさんあることも知ることができました。茶室からの景色と部屋に入る光の使い方など、お客様をもてなす空間が演出されていました。狭い車での移動でしたが、移動時間もスムーズで、楽しい時間が過ごせました。佐川美術館でのモーニングとラコリーナ近江八幡でのパーククーヘンが食事でしたが、それもまた楽しい思い出となりました。(甫立)

■性格が違う二つの建物が持っていた共通点。それは日本の景色の中で、「美しい屋根」の佇まいの魅力でした。この魅力を支えるディテールがいささか気になりましたが・・・、改めて屋根のデザインの大切さを感じました。久しぶりの建物見学、楽しかったですね。お世話になった方々、ありがとうございました。(福田)

■二つの建物が対照的に映りました。佐川美術館の現代茶室はストイックでミニマムな固いイメージ。一方、おおらかで自然に添うような柔らかなイメージのクラブハリエ。実際に見学して感じる大切だと改め思いました。(平手)

■佐川美術館は、屋根の建築だと思いました。滋賀県に残る古い街並みのむくり屋根を現代的に美しく見せてくれます。設計施工の強みか、施工精度がものすごく良いからこそ美しく見えるのだと思います。ラ・コリーナは、子供たちが楽しそうに建物周囲を走りまわる様子がとても似合う建築でした。お菓子店+草屋根で集客力がすごいのだと思います。敷地周囲には今後カステラ店や農園等が整備予定です。山々に囲まれた敷地にとっても馴染む草屋根を中心に、子供たちのための楽しい空間が広がりそうな期待のもてる建築でした。ただ、経年変化で今後良くなっていくというより朽ち果てていきそうなこの建築は仮設的にも見え、メンテナンス面での不安要素が多々見られます。今後は街に愛されながら、改修や補修を繰り返して長くきれいな状態で居てほしいと思います。(黒野)

